

事務 事業名		コード1	2087	海上キャンプ場管理費	課	生涯学習課							
		コード2			所屬班	社会教育班							
					電話番号	55-5727	内線	275					
					☑ 主要事業								
政策 体系	基本方針	4	心豊かな人と文化を育むまちづくり			予算	会計				款	項	目
	施策	4	青少年の健全育成			科目	一般会計				10	04	12
	施策の展開	2	家庭・地域・学校等の連携による教育の推進			根拠	旭市海上キャンプ場の設置及び管理に関する条例・						
	基本事業	243	旭市子ども育成会連絡協議会活動の促進			法令	同条例施行規則						

1 現状把握(Do)

(1)事業概要

① 事業期間	② 事業の内容 ※何をどのようにする事業なのか、市民が理解できるよう記述する、行政用語は使わない
☒ 単年度繰返 ☒ 平成 21 年度～ ☐ 開始年度不詳 ☐ 期間限定複数年度 平成 年度～ 平成 年度まで ※全体像を記述⇒	野外活動を通じて、青少年の健全な育成を図るべく、研修及び交歓の場として、次の施設を提供している。 施設概要(住所:岩井1000番地、敷地:約16,000㎡、設備:管理棟、実習棟、バンガロー8棟、炊事棟、野外便所棟、体育館、キャンプファイヤーサークル) 休場日(月曜日(祝日の場合は翌日)及び12月29日～1月3日)、開場時間(通常:午前9時から午後5時、宿泊利用:午後1時から翌日午前11時、体育館利用:午前9時から午後9時) 利用条件(原則青少年のグループ4人以上とし、未成年者の利用の場合は、成人指導者の引率が必要。ファミリーキャンプ利用可) 【業務の流れ】 使用申請に応じて、許可書を発行する。また、必要に応じて、施設の改修等を行っている。

(2)トータルコスト

① 事業費の内訳(費目等)		単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
需用費(消耗品費・燃料費・光熱水費等)		千円						
役務費(電話料・手数料・保険料)		千円						
委託料(受付管理業務・電気工作物・清掃・警備・浄化槽・防災設備・ホームページ作成等)		千円						
使用料及び賃借料(放送受信料)		千円						
原材料費(補修用木材)		千円						
② 延べ業務時間の内訳		千円						
申請受付・許可業務(300時間)		千円						
管理(整備)業務(200時間)		千円						
事業費計(A)		千円	8,710	11,450	10,925	11,755	0	0
正職員従事人数		人	0.25	0.25	0.25	0.25		
延べ業務時間		時間	500	500	500	500		
人件費計(B)		千円	1,900	1,900	1,900	1,900	0	0
トータルコスト(A)+(B)		千円	10,610	13,350	12,825	13,655	0	0

(3)事務事業の手段・目的・上位目的及び対応する指標

手段	① 主な活動	⑤ 活動指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	23年度実績(23年度に行った主な活動) ①申請受付、許可書発行、使用料納入 ②施設維持管理	ア 利用者数	人	7,396	9,404	13,088	14,000		
目的	24年度計画(24年度に計画している主な活動) ①申請受付、許可書発行、使用料納入 ②施設維持管理	イ 使用料	千円	1,523	1,548	1,575	1,545		
		ウ							
目的	② 対象(誰、何を対象にしているのか)	⑥ 対象指標名	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
	①東総地域の住民 ②施設・設備	ア 東総地域の住民(銚子市、匝瑳市、旭市)	人	182,583	180,885	179,083	176,938		
目的	③ 意図(対象がどのような状態になるのか)	イ 敷地面積	㎡	16,000	16,000	16,000	16,000		
	①青少年が社会でのマナーやルール、思いやりを学ぶことができる。 ②安全に利用できる状態にある。	⑦ 成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
上位目的	④ さらに、どんな上位目的に結び付けるのか	ア 利用団体数	団体数	146	128	133	140		
	青少年の健全育成に留まらず、旭市観光の拠点としての役割。	イ 利用者数	人	7,396	9,404	13,088	14,000		
上位目的		⑧ 上位成果指標名(考え方)	単位	21年度 (決算)	22年度 (決算)	23年度 (決算)	24年度 (計画)	25年度 (計画)	26年度 (計画)
		ア 年間観光客数(観光施設・イベント)(1～12月)	百人	4,640	3,826	2,100	3,800		
上位目的		イ							

(4)事務事業の環境変化、住民意見等

① 開始したきっかけは何か?どんな経緯で始まったか?	② 事務事業を取り巻く状況(対象者や根拠法令等)はどう変化しているか?開始時期あるいは5年前と比べてどう変わったか?	③ この事務事業に対して関係者(住民、議会、事業対象者、利害関係者等)からどんな意見や要望が寄せられているか?
合併以前に、旧海上町が県から管理・運営を委託されていた。その後、平成21年度に千葉県から旭市に施設移譲され、管理・運営を開始した。	開始時期は、キャンプ目的のリピーター団体が多数であったが、体育館単独でのスポーツ団体の利用が増加している。ただし、減免対象となる市内団体が多く、収入にはあまり結びついていない。	市民から施設予約の簡素化(インターネット予約)の要望と、議会から利用にあたってのルール等の緩和の意見がある。

事務事業名	海上キャンプ場管理費	課名	生涯学習課	班名	社会教育班
-------	------------	----	-------	----	-------

2 評価(Check1)担当者による事後評価

目的 妥当性 評価	① 政策体系との整合性 この事務事業の目的は市の政策体系に結びつくか？意図することが上位目的に結びついているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 結びついている ⇒【理由】 観光の拠点の場とするには、規制緩和が必要な部分がある。(青少年健全育成施設のため、飲酒は認めていない)
	② 対象・意図の妥当性 対象を限定・追加すべきか？意図を限定・拡充すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 適切である ⇒【理由】 どのような利用者でも、目的(観光拠点・スポーツ宿泊・自然体験等)に合わせて使用できる施設にすると良いと思う。
	③ 行政関与の妥当性 なぜこの事業を市が行わなければならないのか？税金を投入して実施すべきか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 宿泊・観光施設はサービスが重要であるため、行政が関与すると、柔軟な対応が難しいと思う。
有効性 評価	④ 成果の現状水準 あるべき水準や目標に達しているか？近隣市や類似団体と比較してどうか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 妥当である ⇒【理由】 年々利用者数は増加しているが施設の特性上、繁忙期以外の利用者は少ない傾向にある。また、近隣に類似施設はあるが、宿泊施設として見た場合に、バンガローやテントでの宿泊では、季節や天候の影響を受けることが大きいので、一概に比較できない。
	⑤ 成果の向上余地 次年度以降の成果向上が期待できるか？事務事業を取り巻く環境変化等を考慮するかどうか？	☐ 活動量を増やせば成果は向上する ⇒【理由】 ☒ 活動量を増やさなくても、やり方を工夫することで成果は向上する ⇒【理由】 ☐ 活動量を増やしたり、活動を工夫したりしても、今以上成果は向上しない ⇒【理由】 青少年の健全育成を目的とした施設であるが、施設利用の規制緩和や管理・運営を指定管理制度に移行することにより利用者に対して魅力的な運営への期待が高められる。
	⑥ 類似事業との統廃合・連携の可能性 目的を達成するには、この事務事業の他(民間・国県を含む)に方法があるか？ ↓ 他に手段がある場合 (1)具体的にはどのような事務事業か？ (2)類似事業との統廃合ができるか？類似事業との連携を図ることにより、成果の向上が期待できるか？	☒ 他に手段がある (1) 事務事業名：() (2) ☐ 統廃合ができる ⇒【理由】 ☐ 連携ができる ⇒【理由】 ☐ 既に統廃合・連携している ⇒【理由】 ☒ 統廃合・連携ができない ⇒【理由】 市内に体育館を併設した類似施設がないため、統廃合・連携は難しい。 ☐ 他に手段がない ⇒【理由】
効率性 評価	⑦ 事業費の削減余地(表面トータルコストの事業費部分) 事業費を削減できないか？(経費の精査、過剰仕様の適正化、回数削減、住民の協力、アウトソーシングなど)	☐ 削減余地がある ⇒【理由】 ☒ 削減余地がない ⇒【理由】 指定管理制度の導入が効果的と思われるが、現在の経費と比べて割安となるかどうかは疑問である。
	⑧ 人件費の削減余地(表面トータルコストの人件費部分) やり方の工夫(業務プロセスの改善など)や臨時職員の活用・委託により、正規職員の延べ業務時間を削減できないか？	☒ 削減余地がある ⇒【理由】 ☐ 削減余地がない ⇒【理由】 指定管理制度の導入により、利用申請に対する許可手続きや施設管理業務を一元化することができる。
公平性 評価	⑨ 受益機会・費用負担の適正化余地 事業の内容が一部の受益者に偏っていないか？受益者負担が公平・公正になっているか？	☒ 見直し余地がある ⇒【理由】 ☐ 公平・公正である ⇒【理由】 使用料金について、民間施設と比べてかなり安価な設定となっている。また、市内外の利用者でも料金に差があまりないため、見直しが必要と思われる。ただし、市内外の利用者の増加を考えた場合、適正な料金設定が必要と思われる。

3 評価(Check2)担当課長による評価結果と総括

(1) 1次評価者としての評価結果	(2) 全体総括(振り返り、反省点)
① 目的妥当性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ② 有効性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ③ 効率性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり ④ 公平性 ☐ 適切 ☒ 見直し余地あり	青少年の健全育成を目的とした施設としてはよく整備されているが、野外学習や遊びのプログラムを策定することにより利用者を増加させることは可能と思われる。ただし青少年の健全育成施設のため一般のキャンプ場と異なる部分がある。コストの面から考えると規制を緩和することも検討し、最終的な管理形態は指定管理者による管理が適切と思われるので、この指定について検討していきたい。

4 今後の方向性(事務事業担当課案)(Plan)

(1) 今後の事業の方向性(複数選択可) ※2～3年後を目処にした方向性 ☒ 目的再設定 ☒ 事業のやり方改善による成果向上 ☐ 事業のやり方改善による事業費削減 ☒ 受益機会の適正化 ☐ 廃止・休止 ☒ 行政関与の見直し ☐ 事業統廃合・連携(関連事業:) ☒ 事業のやり方改善による延べ業務時間削減 ☐ 費用負担の適正化			(3) 改革・改善による期待成果 (廃止・休止の場合は記入不要) <table><tr><th colspan="2" rowspan="2"></th><th colspan="3">コスト</th></tr><tr><th>削減</th><th>維持</th><th>増加</th></tr><tr><td rowspan="3">成果</td><td>向上</td><td>○</td><td></td><td></td></tr><tr><td>維持</td><td></td><td></td><td></td></tr><tr><td>低下</td><td></td><td></td><td></td></tr></table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上	○			維持				低下			
			コスト																					
			削減	維持	増加																			
成果	向上	○																						
	維持																							
	低下																							
(2) 改革改善案について ※いつまでに、なにを、どうするのか？ ①平成26年度を目標に指定管理制度への移行を目指す。 ②平成25年度を目標に、利用者の拡大に向け、体験・ものづくりプログラムの創出に努める。																								
(4) 改革、改善を実現する上で解決すべき課題(壁)とその解決策 ①指定管理導入によるコストの削減が図れるか。 ②観光拠点としての役割を担う場合は、他課への施設移管の協議が必要。 ③指定管理制度の導入に向けて、施設の設置条例の改正が必要。																								